

コロナ変異株で緊急事態宣言が発出中ですが・・・(いつまでコロナが続くのか?)

心の栄養として読んでくれば嬉しいです。補足

◆2018年4月13日(金)の毎日新聞に、木戸が龍馬に宛てた手紙の**原本**が見つかったと掲載されていた。<下側> また、以前にもバイキングが、ある番組の中で龍馬の手紙を発見したことが話題になった。<右側>

木戸孝允から坂本龍馬に宛てた手紙の原本。「狂言」や「大舞台」の字が並ぶ。高知県立坂本龍馬記念館提供

龍馬へ倒幕促す手紙

高知県立坂本龍馬記念館(高知市)は12日、長州藩の木戸孝允(桂小五郎)が龍馬に宛てた手紙の原本が見つかったと発表した。2人が武力を用いた倒幕を考えていたことを裏付ける貴重な史料という。21日から記念館で公開展示する。

記念館によると、龍馬は証拠を残さないうえに、龍馬宛ての手紙の原本は7通目。縦17センチ、横28.6センチで、1867(慶応3)年9月4日付とされる。

木戸孝允が送る 原本確認

武力による倒幕をためらっていた土佐藩に決意を促すため、木戸が龍馬に送ったとされる。木戸は倒幕を能く「大舞台」に、大政奉還を「狂言」になぞらえている。狂言が失敗すれば「大舞台」が崩れるのは必然」と主張し、土佐藩兵の上京を求めた。手紙の内容は複製や活字の記録が残っていたが原本は所在不明だった。記念館の学芸員らが筆跡などから本物と判断し、高知県文化財団が650万円で近く購入する。【郡悠介】

2014. 4. 8 (火) のネットニュースより

バイキングお手柄！超お宝・坂本龍馬の手紙を“発掘”

龍馬、暗殺直前の手紙発見 後藤象二郎宛て新政府語る

坂本龍馬(1835～67)が暗殺される直前、土佐藩重臣の後藤象二郎に宛てた手紙の草稿とみられる文書が、東京都内で見つかった。新政府樹立に向けた構想などが書かれている。鑑定人の一人で京都国立博物館の宮川禎一・研究員は「龍馬の最晩年の動きを裏付ける史料は少なく、貴重だ」としている。



持ち主は30年以上前に古物商から購入したという。高知県立坂本龍馬記念館(高知市)などが筆跡や内容などから「直筆」と判断した。日付がないことなどから、草稿とみられる。

記念館などによると、草稿は縦19・5センチ、横104センチで巻物に仕立てられている。「越行(えつゆき)の記(き)」と題され、後藤に宛てた福井藩への「出張復命書」。龍馬が1867(慶応3)年10月28日ごろに福井藩を訪れ、藩士の三岡

八郎(1829～1909)と新政府樹立など国の将来について語り合った内容が書かれている。同年11月5日に京都に戻った後に書いたとみられ、同月15日に龍馬は京都で暗殺された。

【坂本龍馬とは・・・】 <すでに社会科の授業で習ったよね>

◆「世界の海援隊」を夢見た士魂商才の男。土佐藩、高知城下に町人郷土坂本家の次男として生まれた。坂本家はもともと商家で、龍馬は自由で合理的な町人氣質に触れながら育った。

◆窮屈な土佐藩を飛び出し、幕臣勝海舟のもとで航海術を習得し、長崎で貿易会社を兼ねた政治結社・亀山社中、そして海援隊を組織する。そして、対立していた薩摩藩と長州藩の間を調停し、薩長同盟の締結に尽力。

◆さらに、徳川慶喜の大政奉還を画策し、明治維新を大きく推し進める原動力となった。何者かに暗殺され、「世界の海援隊を作る」という夢半ばにして、33年の短い人生の幕を閉じた。(NHKホームページより抜粋)

◆「これから何をやるつもりか?」。江戸幕府の大政奉還の直後、西郷隆盛が坂本龍馬に聞いた。「新政府の役人などまっぴらごめんだ。世界の海援隊でもやるかな」。倒幕に奔走した志士の答えに、西郷は二の句がつけなかったそうだ。かっこよすぎるウ〜!!